

Ai研 NewsLetter No.1

相澤病院臨床研修センターニュース

2010年9月1日

研修センターから「Ai研 NewsLetter」として研修医の皆さんに向けて情報を発信します。
研修センタースタッフのエッセイを中心に、研修医の皆さんとの情報交換ツールとして活用して欲しいと考えています。
研修医の皆さんからの投稿も歓迎します。

去る、8月21日(土)に バンクーバーオリンピックメダリスト 小平奈緒さんを迎えて、研修医と懇談する機会をもちました。研修医と同世代である世界の頂点を目指すアスリートの話聞き、目標を持って努力する場合に遭遇する様々な問題を解決する助けになればと思います。

まず、最初の30分は小平奈緒さんの講演があり、内容はメダルを取るまでの過程と努力の話でしたが、後半は研修医対象の懇談会ということで、特に考えたこと5項目を話してくれました。多少の注釈・解釈を加えて書きますと;

- ① 憧れや尊敬する人を持つこと。目標を持つこと
超えられないと思っても目標を持つことは大切で、努力するうちにいつの間にか到達できていることがある。逆に、目標がなくただ練習をしていては何も達成できない
- ② スランプや試練は乗り越えるためにあるもの
どんなことを達成しようとする場合でも、必ずスランプや困難、試練はあるもの。逆に言えばこれらの困難は乗り越えるためにあり、乗り越えたときに達成感がある
- ③ 環境は与えられるものではなく自ら求めていくもの
求めよ、さらば与えられん(マタイ伝)ですね
- ④ 志は高く!
目標は達成すべき項目であるが、志は達成不可能にみえても高く持つこと。それに向かう努力の中で達成できるものが多くある
- ⑤ 好きなことに夢中になること
目標とすることを好きになること、好きになる努力をすることがよい結果を生むようになる。そういえばイチローもそのように言っていました

講演の後の1時間は、研修医は小平さんと、指導医は結城コーチと懇談しました。研修医グループが何を話したかは定かではありませんが、懇談をエンジョイしたようでした。私は、結城コーチと

の懇談のグループでしたが、結城コーチは信州大学教育学部のスポーツ科学教授で、単なるコーチというよりは、スポーツを科学する姿勢で取り組んでおられ、選手との信頼関係をつくり理論を
実践するという指導方法で、メンタルな面でも参考になる対応を話してくれました。

今回の企画が、研修医諸兄のモチベーションを更にするために参考になればと思います。

ところで、小平さんが銀メダルを獲得したチーム・パシュートというスケート競技は皆さんご存知と
思いますが、パシュートの和訳の「追い抜き」というのは私にいわせれば誤訳です。新聞でも最初
はパシュートと言っていましたが、数日すると「追い抜き」という表現に変わりました。おそらく同じ
ような競技が自転車トラック競技等にもあったためでしょうか。

そもそも、pursuit はフランス語の古語に由来し follow after という意味から来ているようで、「ある
目的に追いつく努力・過程」を言います。追い抜くのは pass です。相澤病院の皆様はぜひ正しい
使い方をして欲しいものです。「追い抜き」でなくせめて「追いかけ」ですが、あえて邦訳しないで
「パシュート」と言うのが最適ですね。

臨床研修センター長 小林 茂昭

